

令和4年度 愛知県義務教育問題研究協議会 協議題（案）

ICT機器を活用した教育活動の在り方

— ICT機器を全ての子供に寄り添うためのツールに—

1 協議題設定の理由

新型コロナウイルス感染拡大による、GIGAスクール構想の前倒し実施

ICT活用推進の重要性が増す中、令和2・3年度の愛知県義務教育問題研究協議会では、「ICT機器を活用した教育活動の在り方」の協議題のもと、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の在り方について協議を重ねてきた。

<成果>

- ① 2年間の研究の結果を事例集としてまとめ・公開し、授業でのICT機器の優れた活用事例を広めることができた。
- ② 現場の創意工夫により、授業での利活用が進み、各市町村での情報交換も活発に行われている。

<課題>

- ① 授業での活用は進んでいるものの、端末を文房具のように活用する取組には、学校や地域によって温度差があり、県全体で底上げを図っていく必要がある。

例

子供への個別支援における活用

非常時の学びの保障における活用

- ② 一人一台端末の急速な整備に現場の対応が十分に追いつかず、新たな課題も生まれている。

例

情報モラル教育の不足

ICT機器利用に関する保護者との連携

「深い学び」の実現のため
↓
「文房具」としてあらゆる場面で
ICT機器に求められる姿が変化
コロナ拡大により、

ICT機器が全ての子供に寄り添うツールとなるよう、
新たな切り口で研究を重ねていく必要がある。

2 令和4年度愛知県義務教育問題研究協議会について

(1) 協議内容

I 授業以外で、ICT機器を全ての子供に寄り添うためのツールとして活用できる場面には、どのようなものがあるか。

II ICT機器を活用するうえで、注意すべきことや大切にしなければならないことは何か。

(2) 報告方法

ICTの活用は、導入ソフトや地域・学校の特徴に左右される部分も大きい。そのため、事例を集めてその方法を具体的に紹介するのではなく、「ICT機器を、こんな方向にも活用することができる」「こんな考え方でモラル教育を行っていくとよい」といった、新たな気づきを生むリーフレットを年度末に作成し、県内に広げていきたい。